

国際交流基金 ジャパンファウンデーションとは

独立行政法人国際交流基金は、世界を対象に国際文化交流事業を実施する機関です。1972年10月に特殊法人として設立され、2003年10月に外務省所管の独立行政法人として改組されました。現在、本部と京都支部、ふたつの附属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、および海外21カ国に開設された22の海外拠点を中心に、外部団体と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3本の柱として事業を展開しています。

「震災を乗り越えて 一世界とつながる」

国際交流基金は2011年度末、東日本大震災から1年の機会に、舞台公演、展覧会、講演会、映画上映会からなる総合文化事業「震災を乗り越えて―日本から世界へ―」を実施しました。震災直後より世界中から日本に寄せられた温かい支援に対する感謝を示し、東北地方が本来もつ豊かさを紹介し、国際社会に対して復興への決意を伝えることを目的としたものです。震災後の日本からのメッセージを、文化を通して世界各地に向けて集中的に発信しました。

これら一連の事業を行う過程で、被災地と海外との間には、さまざまな結びつきがあることに気付かされました。海外からの支援が、実は過去の災害の際に日本から送った支援への返礼であったり、遠く離れたふたつの町が、同じような被災経験をもつ故に理解し共感し合えたり、震災以前からの長い歴史をもつ絆があれば、震災を契機に生まれた交流の萌芽もあちこちに見られました。被災地に対する持続的で深い理解を海外で得るためにはこうした交流の芽を大切に育てていく必要があるだろう、被災地の現場で生まれ、営まれる交流を支援することで、被災地の人びとを励まし復興への歩みを支える活力が生まれてほしい――2012年度、震災から2年目となるこの年、私達は日本からの「発信」に加え、復興のために尽力するさまざまな人や団体と協力しながら、被災地と海外の「交流」や被災経験・復興への取り組みの「共有」を意識した事業を企画することとしました。

この冊子は2012年度の取り組みとして国際交流基金が実施した10の事業「震災を乗り越えて 一世界とつながる」の報告書です。それぞれの事業の概要に加え、海外での反響や参加した人の声を出来る限り多く掲載するよう心掛けました。被災地の現実は厳しく、国際文化交流が復興に貢献できることには自ずと限界もあります。しかし、参加したたくさんの方々の声には、文化交流が何らかの形で応援となり得ることを感じさせるものが多くありました。こうした声を励みに、今後も被災地をはじめ日本と海外との文化交流に邁進する所存です。

報告書を発行するにあたり、本事業にご協力いただいた、すべての方々に厚くお礼申し上げます。

国際交流基金文化事業部

2013年10月